

## 14. 県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

### 連携先

茨城県教育庁高校教育課・茨城県立鹿島灘高校・茨城県立結城第二高校

### 活動メンバー

大学院学校臨床心理専攻 10 名

学部生 11 名

養護教諭養成課程 4 名・国語選修 4 名・音楽選修 1 名・人間環境教育課程心理コース  
2 名

指導教員 3 名

守屋英子・正保春彦（学校臨床心理専攻）・三輪壽二（学校教育）

### 活動の内容・目的

平成 17 年度に開校した単位制・三部制のフレックススクール茨城県立鹿島灘高等学校、および平成 20 年度に同じくフレックススクールとして開校した茨城県立結城第二高等学校へ、生徒達の心のケアの一端を担うこと（気軽な話し相手となり、生徒達のストレスを軽減する）を目的とするキャンパスエイドとして学部生・大学院生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の 4 点である。

- (1) 生徒に対する話し相手としての役割で行う支援活動。
- (2) 「心理学」（必修授業）授業時に補助として参加するなど学校カウンセリングに関わる活動。
- (3) 学校カウンセリングに関わる校内研修会等への参加。
- (4) 活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を、毎回校長に提出する。

### 今年度の活動

今年度のキャンパスエイド活動説明会を 4 月 20 日に行い、キャンパスエイドを希望する学部生に集まってもらった。多くの学部生が参加したが、活動可能な曜日が限られており、同じ曜日に活動希望者が集中してしまうという事態となってしまう、説明会に参加した 5 名の学部生（3 年次 4 名，2 年時 1 名）には今年度の活動を見送って貰うこととなった。

今年度は、鹿島灘高校，結城第二高校ともに月曜～金曜までの 5 日間，どの曜日もエイドが高校にいて活動する態勢を取ることができた。毎月最終週にミーティングを持ち，1 ヶ月のキャンパスエイド活動を振り返った。各自の活動を報告し，活動上疑問や困難を感じることにについて話し合うとともにエイド室に来室する生徒についての情報を共有し，生徒理解と対応を考える時間を持った。エイドと高校側教員との研究協議会が，鹿島灘高校では 4 月 26 日，9 月 27 日，11 月 10 日に，結城第二高校では 4 月 28 日と 12 月 8 日に開催され，エイド達と指導教員が参加した。

また，キャンパスエイドがふだん活動する高校以外のフレックス高校を訪問し，エイド活動をする機会を持つことができた（鹿島灘高校→結城第二高校 7 名，結城第二高校→鹿

島灘高校6名)。今年度はこれに加えて、11月10日に開催された「茨城県立多部制定時制単位制高等学校連絡協議会」の分科会に「キャンパスエイド」を加えて頂き、県内の他のフレックス高校である茎崎高校、水戸南高校のキャンパスエイドと意見交換する機会を持つことができた。

### **活動の成果・意義**

対人関係上の困難を抱えているために同年代の生徒とはうまく関わるできないなど教室に居場所がない生徒達に居場所とコミュニケーションの機会を与えることができたと考える。

キャンパスエイド達は高校での活動と毎月のミーティングを通して、エイド室を訪れる生徒達に対する理解や、対応の仕方などを学び、対人援助についての理解を深めることができた。他校を訪問したこと、他校のエイドとの話し合いの機会により、学校の特色によってそれぞれ違いがあり、その違いに合わせた様々な工夫があることも学ぶことができた。